法人広報誌 つどい

社会福祉法人 つどいの家
第 40 号
令和 7 年 6 月 30 日
発 行 者
社会福祉法人　つどいの家
理 事 長 佐 藤 清
〒984-0838　仙台市若林区
上飯田一丁目 17-58
TEL　022（781）1571
FAX　022（781）1573
https：//www.tsudoinoie.or.jp

笑顔で活動中！（ベストショット）

みて、みて！こんなに大きなピーマンが・・・

屋根まで飛んでくれるかな・・・

狛犬といっしょに「がぉー！」
びっくりした？
う～ん・・・

もっと磨いたらもっとカッコよく映るかも・・・

～令和６年度を振り返って～

理事長　佐藤　清

昨年度となる今年の年明けは、能登地震のような衝撃的な出来事もなく仙台は比較的穏やかと思っていましたが、日本海側では大雪となり、そして大船渡、瀬戸内などで大規模な山林火災が発生しました。山林火災は、最終的に雨のおかげもあって鎮圧できたわけですが、温暖化の影響であろう気候・気象リスク、大地震リスク、トランプリスクなど、国内外問わず様々なリスクの存在を意識せざるを得ないように感じます。また、ＳＮＳ上などで、事実かどうか確かめもせず、収益につながれば嘘でも構わないかのように他者を誹謗、中傷したり、煽りそそのかす言説を流布する行為も重大なリスクの一つであり、こうした他者を顧みようとしない態度は、つどいの家の基本理念と相容れないものであることは明らかです。このような行為がはびこる結果、大切な表現の自由が壊されてしまうのではと心配でなりません。安易に同調して拡散したり、逆に「どうせまた変なことを・・・」と無視したり慣れてしまうことなく、一呼吸おいて見極める姿勢がますます必要なのだろうと感じています。

つどいの家においては、昨年度、複数の利用者さんの逝去という悲しいお別れもありました。また、財務面の厳しい状況も続いています。

費用を賄うだけの基本的な対応がないまま複雑な加算措置など小手先の対応に終始している感のある給付費制度の下、新型コロナを始めとした様々な感染症による利用控え、加齢や病気等様々な事情による長期欠席等々、収入確保には様々な制約を受けています。

決算においては、利用実績確保や各種加算の丁寧な取得等による増収に努め、活動収益は前年比３７百万円余の増収となり、経常増減差額も前年比５百万円弱改善したものの収支相償うには至らず、１５百万円余の赤字となりました。

そうした中でも、日々の活動においては、市中の感染状況に注意を払いつつ、地域交流等各種イベントや外出活動に工夫を凝らしながら取り組むなど、平時の活動に近づける事業運営に努めました。また、収入環境が厳しい中、継続的に取り組んだガイドヘルパー養成講座や宿泊体験機会の提供は、従事者の確保拡大や安定的な利用増など今後につながる重要な成果をあげたものと考えます。

また、寄付獲得や事業の企画立案など関係の皆様方の努力によって歩みだした「きょうだい支援プロジェクトＢＲＩＤＧＥ」は、制度がない中でも必要とされる支援を行えないか模索し続けてきたつどいの家の歩みの延長線上にあるものと考えており、人的、財源的な困難は伴うものの、継続的に取り組んでいきたいと思います。

国全体の経済状況や財政運営からは、給付費水準の抜本的底上げはもとより、物価や賃金の動向等に応じた年次ごとの改定すら望めない状況で、事業運営を取り巻く環境は厳しさが続くものと想定されます。

引き続き事業各分野毎に運営状況を精査し、各種加算の取得など制度的に認められている収入確保策を徹底しつつ、愚直につどいの家らしく支援の質で選ばれ、支持されることを追求し、現在のみならず将来の利用者・ご家族、関係の皆様方の支持を得て支援の実績を確保拡大することで、今年度の黒字化を目指していきたいと思います。

また、そのためにも人材確保は不可欠の課題であり、事業者の努力で実施可能な子育てなどライフステージに応じた各種休暇制度の運用や資格取得支援、研修機会の確保の他、職員相互のコミュニケーションを重視し、理念や事業目的を職員間で共有しつつ理解と合意、納得の下での事業運営を追求し続けることなど、人の役に立つ喜びを感じながら安定的に働き続けられる職場環境づくりに継続的に取り組み、経営改善と事業運営の継続性確保を図ってまいります。

各部より

日中活動支援事業部

社会全体からコロナ禍当時の混乱の記憶が薄れつつある令和６年度は、つどいの家でもほぼ平時の営みを取り戻した１年だったと思います。とはいえ年間を通して見れば、小規模の感染連鎖やインフルエンザの流行、長引く謎の風邪症状など、通常の感染対策の隙間をついて体調不良が散見されたのでした。そんな中でも、日中活動支援事業部においては新たな取り組みが行われた１年でもありました。

アプリでは『成人の旅』を企画･実施しました。高等部３年時にコロナ禍で修学旅行が中止になった利用者さんのために東京方面に旅行を行い、ご家族も含めて旅先でお祝いするというものです。利用者さんにとってもご家族にとっても忘れ難い記念になったと思います。八木山つどいの家では例年同様に地域町内会の役割を担うとともに、定期的に市民センターを利用して活動を行うことでさまざまなサークルの方々との新たな出会いがあり、行ったり来たりの交流を深めることができています。コペル・仙台つどいの家にはパン工房・ショップがありますが、今年度新たに東北福祉大学構内で定期的なパン販売の機会を持つことができました。昨今の社会情勢を考慮して低価格で気軽に昼食にできるパンを構内で販売してほしいという大学側の提案に応える形でスタートしましたが、利用者さんの販売を手伝ってくれる中でガイドヘルパーや介護人に結びつく学生さんも現れ、思わぬ効果もありました。そのつながりでというわけでもありませんが、コペル・アプリ・仙台つどいの家では、東北福祉大学保健看護学科の学生さんの地域包括ケア実習を今年度初めて受け入れました。看護師を目指す学生さんたちに、病院などの医療機関だけではなく地域に点在する障害福祉サービス事業所も職場選択の一つになり得ることを、利用者さんとの活動を通して伝えることができる貴重な場になったと思います。

また、今年度はグループホームへの入居が進んだ１年でもありました。法人が運営するグループホームはなかなか空きが出るものではなく、新規グループホーム開設の計画も地価や資材の高騰を背景に進捗は芳しくありません。そんな中で新たに参入してきた株式会社立のグループホームに入居する利用者さんがコペル・アプリを中心に複数名いらっしゃいました。ご本人のことをよく知る職員が揃っている法人のグループホームとは違い、新たに関係性を築いていかなくてはならず、利用者さん・ご家族にとってはやきもきする場面も多いかと思います。それでも果敢に自立生活の第一歩を歩み始めた方々に大きなエールを贈りたいと思います。

そして。今年度はコペルで２名、若林福祉センターで１名、仙台つどいの家で１名と、利用者さんの逝去が相次ぎました。それぞれに辛く悲しいお別れでしたが、その方の人生のほんの一部分にでも深く関わることができたことは、利用者さんにとっても職員にとっても大きな財産になったのではないかと思います。

日中活動支援事業部長　山口　収

地域生活支援事業部

日中一時支援事業 / 短期入所

日中一時支援事業（すてっぷ･はうす / だいち）は、月平均 70 件程度、短期入所事業（すてっぷ･はうす）は、月平均 28 件程度の利用がありました。日中一時支援事業は 20% 減、短期入所事業は 3% 増の実績となりました。「だいち」はぴぼっと支倉全体（保育所隣接）の大規模改修工事のため、9 月より近隣の交通局地下に仮移転となりました（工事期間約 1 年間の見込）。仮移転した場所の環境からこれまで通りの受け入れは難しく、仮移転後は昨年度に比べ利用は減少しました。R7 年 3 月末現在の登録者数（すてっぷ・はうす / だいち）は 250 名程度（男性 60%, 女性 40%）で、障害支援区分状況については、区分 6 及び区分 5 が 60% となっています。

居宅介護事業

「ぺんたす」では、移動支援事業は新型コロナウイルスによる利用控えの減少等により利用実績が 18% 程増加しました。居宅介護は、利用者

のグループホームへの入居等により 3% 程減少しました。昨年度より開始したガイドヘルパー養成講座を年 6 回開講し、29 名が新たにガイドヘルパーとして入職しました。また、みやぎ生協福祉活動助成金をいただき、ガイドヘルパー養成講座に活用することができました。「ぴぼっと」（グループホームにおける居宅介護）では、毎月ヘルパー連絡会を各グループホームで実施し、オンライン研修を活用し、現場で必要とされる知識や実践的なノウハウを継続して学ぶ機会をつくりました。

指定相談・委託相談

相談支援事業（計画相談 / 委託相談）は、障害種別を超えた対応が求められ、複雑な背景のあるケースが増加しています。計画相談の登録者数は「とびら」214 名、「くれよん」138 名でほぼ横ばいでした。「とびら」「くれよん」ともに新規利用者の受け入れが難しい状況にあります。相談員は個別ケースを担当するだけではなく、区自立支援協議会の部会や法定研修の演習、実習の対応等、他機関と連携し相談支援体制の整備に取り組みました。「とびら」「くれよん」ともに社会福祉士養成校からの社会福祉援助技術実習生を受け入れ、福祉の将来を担う人材育成に努めました。

福祉有償運送事業

福祉有償運送事業は、ぴぼっと南光台（すてっぷ・はうす）で実施しており、登録者数は 8 名で福祉有償運送に代わるサービスを利用することが難しいため、個別に対応しています。今年度の福祉有償運送事業の運行回数は昨年度よりも増え、30 件の利用があり主な目的は通所先への利用でした。

共同生活援助事業

新型コロナウイルス感染症対策を継続し、感染予防に取り組みました。6 月、8 月に入居者の感染があり、療養期間中はグループホーム内でゾーニング（生活空間の区分け）を行いました。ゾーニング期間中はグループホームでの療養期間となるため、入居者に過度のストレスがかからないよう対応方法等の見直しをしました。入居者の入院や救急搬送、また病気により在宅生活へ戻った方等、入居者の加齢に伴う生活の変化がみられました。昨年度より新規グループホーム開設に向けて準備を進めていますが、物価高騰の影響等により候補地が見つからず進捗はありませんでした。

地域社会とのつながり

サポートセンターではそれぞれのエリア（泉区南光台、青葉区支倉、若林区遠見塚）で、地域における公益的な取り組みを行いました。ぴぼっと南光台では数年ぶりに「三丁目市」を再開し、秋にぱん・ふぇすを実施し、地域の多くの方々に来場いただきました。ぴぼっと支倉では近隣地域の事業所と連携し、市民センターの市民向け講座に参加し、地域の子どもたちや高齢者の方々と一緒に七夕飾り作りを行いました。ピボット若林では「とり＋かえっこ」（使わなくなったおもちゃを交換するゲーム）を行い、地域の小学生の子どもたちと交流をもちました。今後もそれぞれのエリアで地域社会とのつながりを大切にしていきます。

地域生活支援事業部長 飯田克也

《三丁目市～秋のぱん・ふぇす》

総務部

これまでも本誌を通じて、年度の総括（振り返り）をお伝えしてきましたが、ここ数年続く法人経営の厳しい状況に大きな変化がなく、何をお伝えすべきか思案に暮れています。

確かに、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が 5 類に移行して以降、以前の活動を取り戻すことに各事業所とも取り組んできましたし、多くの方々との交流機会も増えました。各事業の利用数も確実に増加を示していますので、上昇気流に乗って赤字脱却を期待しましたが、結果、そこには至らず、4 年続けての赤字決算となりました。只々、法人の財務的な体力の低下が懸念されますが、あまりこのことを強調しますと、職員のモチベーション低下や職員採用などにも影響が生じますし、本誌読者の皆様にもご心配をおかけすることになりますから、公表

の仕方も非常に難しさを伴います。ご承知のとおり、福祉・介護の分野は、収入財源の大半を占める報酬は公定価格の制度に基づくものですので、職員の処遇改善に必要な原資の確保も容易ではありません。３年ごとに見直しがされる障害福祉サービス等の基本報酬においても、生活介護や居宅介護といった主力事業ではむしろ基本報酬の単価が下がりました。法人の持続可能性を高めるためには、事業単位で赤字を抱えている事業を最低採算ラインにまで引き上げる工夫と努力が益々必要になります。約半世紀の間、積み重ねてきた礎を次に繋げるためにも、令和７年度においては、その改善策を確実に見出さなければと焦りが募るばかりです。

これらのことを含め、総務部の役割の大半は、法人経営及び事業運営の安定化、健全化を図ることに加え、職員の労務管理や労働環境の改善に向けた取り組みが基本となりますが、一昨年から本誌を通じて紹介してきました「きょうだい支援プロジェクト」もまた、大事な総務部の役割の一つとして捉え、取り組みました（詳しくは、本号後半の記事をご参照下さい）。

また、昨年度は積極的に他法人の事務局職員等との交流も行いました。事務職は利用者支援に関わる職種と異なり、他法人職員との交流機会が極めて少なく、意図しないと改善のヒントを逃してしまうこともあり得ます。顔の見える関係性を構築することは、いざ困りごとを抱える状況に陥った際の助けにもなりますし、行政交渉等の際にも、相互に情報交換を行うことにより、結果、しょうがいのある人の豊かな暮らしにも繋がります。この他 ICT（情報通信技術）の利活用を巡っても、まだまだ改善の余地が多く、この手の補助金を有効に活用しきれていなかったこともあり、先進的な取組みを行っている他法人とも繋がる機会を持ち、参考とさせていただきました。経営の透明性確保とガバナンス強化等を図るため、運営事業所の第三者評価受審にも取り組むなど、これまで踏み出せていなかった分野にも積極的に関わりをもった一年でした。

この他の取組みについては、事業報告書としてホームページに掲載しますので、そちらも併せてご高覧いただければ幸甚です。今後とも皆さまのご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

総務部長　佐藤吉久

決算報告

令和６年度は資金収支ベースで総収入 94,393 万円（前年度比：4.1％増）、総支出 96,230 万円（前年度比：2.2％増）、資金収支：△1,835 万円で決算しました。

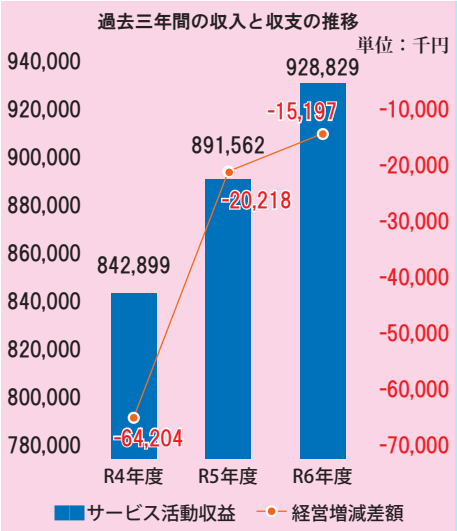
「グラフ 1」に示す通り、経常増減差額（事業活動の収支）経常増減差額においては、令和 5 年度と比較し 502 万円改善しました。

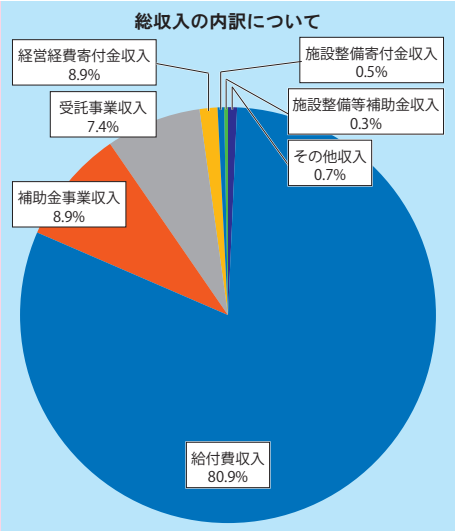
主な要因としては、生活介護においてコロナ禍による利用控えが解消され、利用者の再開が進んだことに加え、新たな利用契約の増加により、生活介護・グループホームともに実績が向上したことが挙げられます。

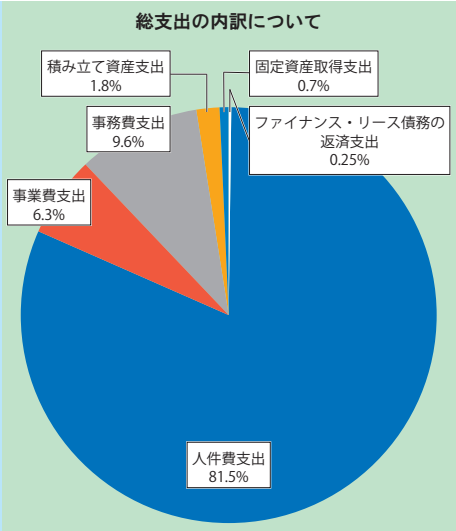
また、移動支援においては令和５年度から開始したガイドヘルパー養成講座の受講者が順調に増加し、対応可能なガイドヘルパーの増員につながったことで、実績も伸びました。

今後も新規利用者の受け入れやサービスの充実に注力し、更なる財務改善を目指してまいります。

総務部　阿部幸生







きょうだい支援プロジェクト報告

令和６年度、きょうだい支援プロジェクトが本格始動いたしました。プロジェクトの愛称も「BRIDGE」に決まり、きょうだいさんの夢や未来への架け橋になれるよう取り組んでおります。事務職員は毎月事務局定例会を行いながら、大きく ３ つの担当に分かれ、きょうだい会やパートナー（協力者）定例会、親子イベント等を企画し、実施しました。以下において今年度の取り組みをご報告いたします。

実施月	イベント	内　容
４月	きょうだいの日記念イベント お花見＆たこやきパーティー	きょうだいの日を記念して、お花見とたこ焼きパーティーを開催。 （参加者６名）
７月	きょうだい会 ヒップ・ホップダンス体験	ダンス講師を招き、ダンス体験をしました。きょうだいさん同士交流もできました。（参加者２名）
７月	親子参加イベント 夏の遠足、バーベキュー	泉ヶ岳で BBQ やアトラクション体験、大きな紙飛行機を作り飛ばしました。 （参加家族６組）
９月	きょうだい会 ゲーム大会	これまでの参加者のアンケートから大画面を使ってマリオカート対戦をしました。 （参加者６名）
９月	家族間交流・勉強会 第１回カフェトーク	講師による講話や、保護者同士日頃の悩みや疑問を出し合い、講師からアドバイスを頂くグループトークを企画しました。（参加保護者５名）
９月	視察研修 （事務局＋学生パートナー）	先駆的に支援に取り組んでいる団体を視察しました。（関西・関東方面）
11 月	きょうだい会 いろんな打楽器を叩いてみよう	これまでの参加者のアンケートから音楽の会を開催。 おやつタイムではきょうだいさん同士の交流もできました。（参加者３名）
12 月	きょうだい会 クリスマス会	ケーキ作りやスノードーム作りをしながらきょうだいさん同士が交流を深めることができました。（参加者７名）
12 月	実践発表会	法人内の実践発表会に参加し、総務部としてきょうだい支援プロジェクトの取組みを全職員へ紹介し理解を深めました。
１月	親子参加イベント 新春親子イベント	家族間で交流をしながら、巻き寿司作り体験、干支の飾り物作り等をしました。 （参加親子３組）
２月	一般市民向けセミナー	「きょうだい支援の必要性とその支援」と題し、講師を招きセミナーを開催しました。
３月	きょうだい会 パン、クッキー作り	パン、クッキー作りを通し、きょうだいさん同士の関わりが多くみられました。 パンを食べた後のかくれんぼは大盛り上がりでした。（参加者６名）
３月	家族間交流・勉強会 第２回カフェトーク	きょうだい当事者である学生パートナー４名と保護者さんとのトークイベントを企画しました。（参加保護者６名）

上記の他にも、毎月の事務局定例会や県内の各大学等に出向いてのパートナー募集、イベント開催時のチラシ、ポスター配布、助成金申請、寄付獲得の仕組み作り等を行いました。

さて、令和 ７ 年度も昨年度と同様取り組んで参りますが、今年度は事務局の担当をきょうだい会担当、パートナー担当、広報地域啓発資金調達担当の ３ つに分け、今後も継続して活動していくための資金獲得についても、重点的に取り組みたいと考えております。しかしながら、我々の力だけでは限界があり、人的にも、資金的にも皆様方のお力添えが必要です。何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

きょうだいのみなさんが、心身ともに健やかに成長し、主体性を育みながら、夢や希望をもって歩むことができるよう、今後も寄り添ってお手伝いをしていきたいと思います。

総務部　早坂智毅

きょうだい支援プロジェクト令和6年度活動報告を作成いたしました。
ご希望の方はこちらから詳細をご覧ください。

令和６年度　地域における公益的な取組

社会福祉法人においては自らが行う事業の利用者の福祉ニーズを的確に把握し、これに対応することのみならず、少子高齢化、人口減少社会等の社会情勢の変化を踏まえつつ、既存の社会保障制度や社会福祉制度では対応が困難な地域ニーズを積極的に把握し、地域の関係機関との連携や役割分担を図りながら、新たな地域ニーズに対して積極的に対応していくことが求められています。

令和６年度の地域における公益的な取組のうち二つを紹介します。

「異業種間交流研修会」

太白区山田地域にアプリが開所してから 14 年、開所当時からお向かいにある株式会社マルタマ様には、たくさんのサポートをいただております。

福祉の仕事において支援の基本は「あいさつ」です。感染対策でマスク生活が長引き、表情が読み取れない、声が聞き取りにくいなど、気持ちの良いあいさつを心がけていても不快な印象を与えてしまうことがあり、どのように対応していくべきか悩んでいました。また、マルタマ様のお客様の中でも、高齢の方や、車いす操作を必要とするお客様が増えてきているので、その福祉のノウハウを知りたい、介護が必要な人に、社員としてどのような声がけをしていくべきか聞いてみたいということで、お互いの強みを活かすことができる研修会「異業種間交流研修会」を開催いたしました。

まず、アプリによる車いす体験や高齢者疑似体験を実践し、車いす操作の難しさや高齢化による身体的不自由さを体験していただきました。また、マルタマ様による接客マナー講習では、お互いに話す時の視線の位置や傾聴する姿勢などひとつの行動で感じ良さの違いを感じとることができました。

地域の中には福祉業や娯楽業に限らず、教育・製造・卸・金融や建設業など様々な分野の方が活躍しています。お互いの強みを発信し創意工夫をしながら交流することで、今後のまちづくりに取り組めるのではないかと考えております。

つどいの家・アプリ　大累　貴司

「仙台七夕かざりを作ろう」

ぴぼっと支倉では、令和 3 年度から「隣接する事業所間で顔の見える関係をつくり、情報交換・地域課題を共有し、協力しながら地域への取組みを行う」ということを目的に、近隣の事業所である木町通地域包括支援センター、支倉保育所、早稲田イーライフ青葉と情報交換を行ってきました。

令和６年度は、木町通市民センターの主催事業である「きまち仙臺物がたり」に 4 事業所が共催し、7月5日(金)･6日(土)に木町通市民センターで実施された「仙台七夕かざりを作ろう」に参加しました。制作した飾りや願いごとを書いた短冊を持ち寄ったり、イベント当日に参加したり、完成した七夕飾りを事業所に飾って鑑賞したり…と、事業所ごとに“参加しやすい”スタイルとなりました。ぴぼっと支倉は、仙台つどいの家利用者にイベント参加を呼びかけ、5 日に 3 名の方が参加しました。（他の利用者も輪飾りや折り鶴、短冊づくり等をしてくれました）職員も 2 日間参加し、地域の子どもたちや住民の方々と交流することができました。この取組みを通じて、木町通市民センターでは福祉ＭＡＰを作成して各事業所のＰＲも行っていただきました。

それぞれの事業の特色を活かしながら、今後も地域へのはたらきかけを継続していきたいと思います。

ぴぼっと支倉　加藤裕絵

令和６年度

寄付者ご芳名

（令和６年４月１日～令和７年３月31日）

沢山の方々のご協力に心より感謝申し上げます。

赤井澤　勝子様
赤井澤　功子様
浅野　昭子様
阿部　絢子様
阿部　恵子様
阿部　信一郎様
阿部　孝子様
阿部　敏彦様
阿部　敏行様
阿部　は佐様
阿部　美祐一様
阿部　悠紀子様
阿部　清子様
天野　このみ様
粟野　早苗様
安藤　彦一様
安藤　一真様
安藤　冷一様
飯田　達夫様
飯野　雄彦様
飯部　博人様
五十嵐　功様
江田　哲夫様
池尚　知英様
石井　望幸様
石井　和雄様
石田　睦美様
石道　敦孝様
伊勢　学一様
磯部　明子様
板垣　正人様
板橋　和也様
一ノ瀬　和夫様
稲木　俊子様
稲邑　恭子様
今井　香好様
今井　澄夫様
岩佐　加奈子様
岩田　辰也様
植松　亜佐様
植松　和久様
生袋　昭宣様
梅川　敬子様
遠藤　克子様
大内　恭子様
大木島　隆様
大越　裕光様
大立目　紀子様

大野　克彦様
大村　武志様
大山　眞一様
緒方　圭子様
岡田　千栄様
岡村　京子様
小川　れい子様
奥山　慎一様
尾崎　靖博様
落合　文子様
小野　真理様
小原　広樹様
加々見　雅子様
鏡　覚様
梶井　正代様
梶野　牧子様
加藤　幸様
加藤　義晃様
加納　愛美様
河田　年弘様
川股　ち様
川村　裕子様
菅野　道世様
菊池　真凛様
菊地　田香様
木戸　喜子様
木村　すみ子様
木村　げ様
工藤　矢様
小池　祐子様
小岩　祥様
コーエンズ　久美子様
後藤　均様
後藤　啓様
後藤　光二様
後藤　富様
後藤　道男様
後藤　栄様
小林　慶様
近藤　太様
近藤　ヨシ様
齋　誠二様
斎　益生様
齋藤　秀夫様
齋藤　ま様
齋藤　幹子様
坂川　母様
坂田　晴様
佐久間　弘様
櫻井　幹郎様
佐々木　栄様
佐々木　和弘様

佐々木　眞一様
佐々木　敏宏様
笹口　ひろ江様
佐藤　篤様
佐藤　逸夫様
佐藤　和子様
佐藤　清様
佐藤　章様
佐藤　盛一様
佐藤　時二様
佐藤　広子様
佐藤　泰美様
佐藤　宏司様
佐藤　美沙様
佐藤　三代様
佐藤　も子様
佐藤　泰子様
佐藤　由樹様
佐藤　田紀様
佐藤　由美様
佐藤　芳直様
佐藤　吉久様
佐藤　吉弘様
佐藤　喜様
志田　子恵様
品田　崎紀様
篠崎　村美様
志村　郡勝様
志村　山鎮様
下山　和様
庄司　孝志様
庄司　尚子様
庄司　博子様
庄司　博様
百子　鳥美様
菅井　香様
菅原　慎一様
菅野　幸子様
杉原　和枝様
鈴木　昭智様
鈴木　智博様
関口　睦子様
関根　佳子様
攝待　美千様
相馬　智千様
副島　宏克様
高倉　祐一様
高嶋　邦明様
高鳥　盛男様
高橋　明子様
高橋　和様
高橋　幸様
高橋　伸様

高橋　秀昭様
高橋　宏子様
高橋　豊様
高橋　恵美様
滝口　聰一様
竹内　幸雄様
武田　光様
橘　則悦様
田中　総子様
田中　紀一郎様
田中　栄子様
田野　つ様
丹野　ね子様
丹野　広様
反町　高々様
千葉　奈様
槻田　晟様
角田　ス様
寺嶋　則様
戸澤　慶様
富田　恭様
富田　翔様
長岡　喜様
長岡　美様
永坂　有様
中沢　子様
長瀬　利様
中村　行様
中村　正様
中村　良様
中村　祥様
名越　友様
並河　晴様
成川　し様
野田　浩様
芳村　お様
橋本　一様
橋本　よみ様
橋本　れ様
長谷　み様
畠山　す様
羽生　恒様
土生　明様
濱　英様
宏　あ様
早川　建様
早坂　智様
早坂　真様
早坂　澄様
早坂　伴様
針持　宏様
平田　福様
平間　義様
福地　一様
　　亜様
　　矢様
　　良様
　　き様
　　聡様
　　保様
　　文様
　　理様
　　哲様
　　郎様
　　由様
　　澄様
　　真様

藤岡　正行様
藤嶋　由紀様
藤原　美恵様
舟山　理人様
星　清様
星　幾代様
細野　仁様
細井　光様
堀川　実子様
堀江　喜一様
堀口　信子様
本郷　順様
本間　正様
前野　廣様
松浦　繁様
松田　忠様
松田　功様
丸山　直様
三浦　仁様
三浦　政様
三浦　己様
三浦　清様
三浦　重様
三浦　守様
三浦　洋様
皆川　信子様
村上　栄様
村田　真様
門　咲様
八鍬　龍様
安室　義様
谷地　一様
森　雄様
矢野　涼様
山内　里様
山内　萬様
山口　明様
山口　信様
山口　房様
山田　収様
山本　賢様
横橋　征様
横山　哲様
吉田　也様
善積　洋様
我妻　男様
若林　則様
若松　長様
渡邊　ク様
渡辺　リ様
和田山　ニ様
匿名　101名様

株式会社アトマックス様
株式会社アルト　代表　古高　亨様
株式会社アルファス計装様
イオンスーパーセンター株式会社
鈎取店様
イオン東北株式会社　仙台幸町店様
伊達瓦せんべい本舗 有限会社一茶様
有限会社岩井紘子建築設計事務所様
株式会社ＳＯＥ様
株式会社 川嶋酒販 酒のかわしま様
ぎゃらりぃかふぇ和座様
株式会社共栄防災様
国分町味よし　氏家　剛様
有限会社サンシン自動車様
株式会社ジェイアイシー様

株式会社ＪＯＥ様
株式会社ジェー・シー・アイ様
株式会社七十七銀行　沖野支店様
株式会社庄子専助商店様
一般社団法人白石庵敬神会様
新港機工株式会社　佐藤廣治様
セブンイレブン　萩野町２丁目店様
一般社団法人仙台建設業協会様
仙台市職員労働組合様
仙台商工会議所様
仙台地方自治研究センター様
仙台つどいの家保護者会様
株式会社丹秀工務店様
つどいの家・アプリ保護者会様
つどいの家後援会様

つどいの家・コペル保護者会様
つどいの家連合保護者会様
株式会社ハート総合企画様
社会福祉法人聖坂学園 オリブ工房様
ブルームビルド株式会社
代表取締役　小関朋宏様
株式会社三晴産業様
みやぎ生活協同組合様
八木山つどいの家保護者会様
株式会社八千代　みやこがね本舗様
株式会社山田木材店様
株式会社リコー
リコー社会貢献クラブ・FreeWill様
宗教法人瀧澤寺様

総計 398 名様　17,187,206 円

《寄付者芳名の掲載について》匿名を希望された方及び掲載可否の不明な方は匿名とさせていただきましたので、何卒ご了承ください。